

開会 令和3年8月25日  
閉会 令和3年8月25日

# 足利市総合教育会議

足利市教育委員会

令和3年度第1回 足利市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和3年8月25日(水)  
開会 午後3時30分 閉会 午後4時45分
- 2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室
- 3 出席者  
市長 早川 尚秀  
教育長 須藤 秀幸  
教育委員 笠原 健一  
教育委員 市橋 雅子  
教育委員 照本 夏子  
教育委員 木村 知巳
- 4 会議出席した事務局職員  
総務部長  
行政管理課長  
教育次長  
教育総務課長  
学校教育課長  
教育総務課庶務担当総括主幹  
教育総務課庶務担当主幹  
学校教育課指導担当主幹  
教育研究所次長
- 5 傍聴 傍聴者 なし
- 6 会議日程  
市長挨拶  
  
教育長挨拶  
  
議題 「目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成」

## 7 会議の経過

### ○ 開会

### ○ 早川市長挨拶

教育委員の皆様におかれましては、日頃より本市の教育行政にご尽力いただき、あらためてお礼申し上げます。また、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

栃木県においては、7月末から第5波による新型コロナウイルス感染者が猛烈な勢いで増加し、8月20日からは3度目の緊急事態宣言が発令されました。足利市も感染者が増加しているため、市民の皆様が1日でも早くワクチン接種が出来るよう、これまで以上に強く、国、県に働きかけていきたいと思っています。

現在、小中学校は夏季休業中ですが、1週間後には2学期が始まります。足利市では、9月1日（水）から緊急事態宣言期間である12日（日）まで、分散登校にすることを昨日決定しました。13日（月）以降は、国・県の動向や本市の感染状況等を勘案しながら検討してまいります。感染防止対策をこれまで以上に徹底しながら教育活動を実施し、こうした状況下でも、大切な子供たちが笑顔で安心・安全な学校生活を送れるよう支援してまいりたいと考えております。教育長とも相談をさせていただきまして、まずは感染防止、それから学びを止めないこと、そして各家庭の事情に配慮をしてということで分散登校にしたところでございます。

さて、ご案内のとおり、本日の議題は、「目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成」についてであります。私は、目標や夢を叶えるためには、子供たちが主体的な学びなどを通して、小さくても良いので成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めることが大切であると考えております。しかし、今の子供たちは、それらの体験が不足しているのではないかと感じております。目指すべき子ども像にも、「自ら学び」とありますように、足利学校のあるまちに相応しく目標に向かい、自主性や探求心を持って、能動的に学ぶ子供の育成について、教育委員の皆様と意見交換させていただきたいと考えております。

限られた時間ではございますが、よろしく願いいたします。

### ○ 須藤教育長挨拶

それでは教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

早川市長様におかれましては、日頃より本市の教育行政に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

また本日はご多忙のところ、市長と私たち教育委員が教育に関して話し合

いができる場を設けていただき、心より重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

また市長の挨拶の中にもありましたが、9月1日の2学期の始業式を迎えるにあたり、子供たちの心身の健康と子供たちの学びを止めない、その方針の下で分散登校、そして感染拡大を防止するという観点から、抗原検査キットを全小中学生、約1万人に配付していただけるなど、またそれに伴い、安心しての登校、家庭での感染拡大防止の意識の高揚など、多くのご示唆をいただいております。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて本日の総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で示されております総合教育会議における協議事項3つのうち、教育を行うための諸条件の整備など重点的に講ずべき施策に関する事、特に目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成を本日の議題として行われるということになっております。

子供たち一人ひとりが、自分の夢や希望に向かって日々努力している姿はとても美しいと思っております。夢や希望を実現するために、頑張ろうという気持ちになるためには、市長のご挨拶の中にもありましたが、小さな成功体験の積み重ねが不可欠だと、私も同じように考えております。足利学校のあるまち足利で学ぶ子供たちには、是非夢や希望、目標に向かって努力することの尊さ、そしてその大切さを実感し、体現してほしいと願っております。

本日は参会の皆様方からの自由な意見交換、幅広い話し合いを通して課題を共有し合い、さらにはその解決の方向性を見出せばありがたいと思っております。足利の子供たちのために、本日はよろしく願いいたします。

## ○ 議題 「目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成」

### 学校教育課長

「目指すべき子ども像」と本市児童生徒の実態について説明

### 市長

ただいま、「目指すべきこども像」全般について説明いただきましたが、議題にもありますように、本日は「目標に向かい、主体的に学ぶ」という部分に焦点をあてて、意見交換させていただきたいと思っております。

私も子供が小さいのですけれども、勉強だろうとスポーツだろうと、目標を持ってそれに努力している子供たちもいれば、何となく毎日過ごしているだけの子供もいます。やはり目標を自分で持って、自分で努力をして、そこで成功体験があったり、それが自己肯定感につながったり、最後まで頑張ろうと思ったり、もちろんそこには挫折や苦悩といったものもつきまとうと思

うのですけれども、そういった色々な経験をすることということも大事なのかなと思います。

例えば進学中学の先生の話をお聞きすると、塾で受験対策で詰め込まれて、あれしろこれしろとその通りにやってきて一流進学中学に入って、入った後、今度は自分たちで考えて勉強しましょうとなるとできない。与えられてきたものなので、何をすれば良いですかといったところから始まってしまっ。そうなるとうむしろ、高校1年生から外部から入ってくる公立中学校の子の方がものすごく意欲的で、スポーツや勉強も幅広くできて。そんな状況が最近見られるという話を、この前、私立進学中学の先生がしていました。

与えられるものばかりを詰め込んでということ、一時的には学業の成績も伸びるかもしれませんがけれども、長い目を見た時に、よく考えると、やはり主体的に学ぶということは、一生必要な姿勢なのかなと思いますね。

そういったことを感じたところでありまして、それについて焦点をあてて、皆様からご意見を頂ければと思います。「目指すべき子ども像」全般でも結構ですし、「目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成」についてもご意見頂ければと思います。いかがでしょうか。よろしくお願ひいたします。

## 笠原委員

他のまちの子供たちと、足利の子供たちというのを第三者的に比べたことではないので、あくまでも足利の子供たちを見ていることが圧倒的に多い訳ですし、他の子供というのは話に聞くとかニュースで聞くとかですから。同じ土俵で、同じ視点で見ている訳ではないですから、その点はちょっと割り引いて聞いていただかなくてはならないのですが。

私は良い意味では、足利の子供たちというのは恵まれている、それは経済的な意味ばかりではなくて、色々な社会環境も恵まれている子供が多いのではないかなと思うのですね。恵まれているというのは良い訳なのですけれども、逆に恵まれているがために、食欲さとか、他を押しつけてまで凶々しく這い上がろうとする気持ちは、残念ながら少し少ないということがあつたりするのではないかな。勝手に思うと、足利が14万5千人の中で、例えば個人事業主さんの数だけいうと6,000とか7,000とかいるのですかね。そうすると単純に言うとう、20人に1人は社長さんみたいな立場の人がいる訳で、親御さんがそうだとすると、その方は少なくとも仕事の面においては、組織というか個人商店か会社かにおいても、少なくともトップであつて、リーダーであつて、色々な形で決断しなければならぬし、自分の主義主張が通せる立場の人が親御さんにいる場合も多いのだと思うのですね。それを子供さんが見ていると、良いこともあるだろうけれども、社会性ということの中で、ちょっとまずいこともあつたりするかなと。今は違ふかもしれませんが

けれども、昔、私なんかもPTAをやっていた頃に言われたことがあったのは、例えば中学で進路指導の先生が三者面談をやって、その時に親御さんが一緒に来て「いやいや、こいつは別に勉強なんかさせなくていいんだよ。うちの仕事を継がせるのだから。」と言うと、言ったかどうか分かりませんが、例え話ですね。そうすると、その子供さんは、そんなに努力しようということにならないかもしれない。ただそういうことが、勝手にこじつけて言うと、もしかすると豊かさが、さっき言った主体性とか、誰かが何かやってくれるということもあるだろうし、自分が何かをやっていかななくてはならないとか、あるいはさっき言った他を押しつけても何としても勝ち抜くんだという、そういう意欲に乏しいような風潮というか、そういうものが身に付いているということがあるかな、という心配はしたりしますよね。

その時にやっぱり私は、さっき市長が挫折も含めてとおっしゃったけれども、まさしくその通りで、やっぱり何でも自分で、若い頃の失敗というのは私も年寄りの方になってきましたから思えば損な話なのですけども、昔に色々なことをやったのは何とでもなる訳ですから。その時にやらなくて、将来、今十代の子供たちが、30年後、40年後、その地域だとか、あるいは大きく日本を支えることになった時に、もうその手立てをどうしたら良いのか分からないとか、そういうことになることを、そんな先々のことを言ってもしょうがないのですけれども、ちょっと憂えたり心配したりはします。

もっとやっぱり、子供は子供らしく、ある意味でハチャメチャであってほしくて、例えばたくましさという言葉はすごく良いのですけれども、そういう良い意味のたくましさを持ってもらいたいな、と実は思っています。だから我々教育委員としても、もしそういうのが少し足利の子供たちに傾向的に見られるならば、そういう良い意味での図々しさとか、もっと良い意味では向上心とか、さっき市長がおっしゃった自己肯定感とか、そういうものを持てるような道筋を作れるようにしたら、あるいはすべきと思ったりします。

今のは、かなり話を膨らませた、勝手に思っていることになりましたが、それは少し割り引いて聞いてください。

## 市長

ありがとうございます。市橋委員お願いします。

## 市橋委員

先ほど発表していただいた内容を踏まえて、2点ほどお話をしたいと思います。

1つは足利の子供たちの様子とか、課題とかということで出てきたことですね。その中のまず1つ目ですが、実際の学校の授業では意欲的にやっ

る、生き生きとやっている、楽しそうにやっているのだけれど、それを試してみると、それが結果として出てこないという部分がある。基礎的、基本的な学力を確実に身に付けるという点で、やや課題がある。そこを育てたいということと、意欲的に学ぶ子を育てたいということ、そこら辺を伺って、1つは学力の定着ということと、もう1つは意欲ということで、それが大きな1つ目なのですから。

その学力の定着ということで、やっぱり家庭学習の習慣化をすることがとても大切で、それによって学力が身に付いてくる。学校でやって分かった、楽しかったことが更に身に付いてくるということが大きいのかな。そういった面で足利の場合は、家庭学習の時間が少ないという実態が出ていて、何年か前からこの「学びのすすめ」に取り組んでいる訳なのですから。裏表の保護者用のリーフレットなのですから、色も良いのですけれど、中身もすごく良くて、家庭学習の手引きなのですね。大変シンプルで分かりやすく、私は素晴らしい内容だと思っているので、この活用には是非力を。作った時というのは、一生懸命見たり広げたりするのですが、それが終わるとしまわれてしまうというか、もったいないと思うのです。これは是非、足利のスタンダードとして、広めてほしい。終わりにしないで、今後も続けてほしいと思います。

意欲という点では、ちょっと前なのですが、国立政策研究所の「学習意欲に関する調査研究」というのがあって、その中で小学校、中学校ともとてもやる気になった時、またはやる気になる時はどういう時かという、ベストワンが小中とも一緒に95%の子は「授業がよく分かる時」と答えています。要するに教室の授業が分かることが意欲につながるということで、教師が分かる授業をすることがとても大事だと。毎日、毎日、授業を受けている訳なので、そうすると教師の授業力の向上を目指していかないと、ということで、足利としては「かなふりまつプロジェクト」というのを何年か前からやっているのです。私は、これは素晴らしい取組だと思って、本質のところに向ける、教師の指導力を高めるという最も基本的なところなので。指導主事と学力向上コーディネーターさんという方で、学校訪問をしているのですけれども、すべての小・中33校、去年のデータを見ましたら年間201回行っているのです。だから本当に一人ひとりの先生の力量を高める上で、とてもこれは力になっています。大切なことは、この「かなふりまつプロジェクト」にしても、「学びのすすめ」にしても、継続して力を入れて止めない。学力で結構有名な県は、何十年と同じことをずっとやっているのですよね。

作った人だけの問題ではなくて、継続していく、このことを保護者や教師がみんな分かっている、足利の子は「学びのすすめ」と言ったらすぐ分かるとか、やっぱり継続は力だと思うのですよね。そこをやったら良いのかなと

思いました。

大きくもう1つは実態から見えてくるもので、テレビ、ゲーム、スマホに費やす時間が多いという、この部分なのですけれども、足利市の子供たちのスマホ等のアンケート調査を見せてもらったら、フィルタリングをかけていない家庭がとても多いのですね。かけてないどころではなくて無関心。そんなものがあったのという感じのアンケート調査で、ちょっとびっくりしたのですけれども。スマホも1日2時間以上見ている子が、全国に比べて多いということで、是非フィルタリングとか、家庭でのスマホのルール作り、この辺を強力に今進めていかないと、ゲーム依存とかスマホ依存症とか睡眠障害の問題、これが子供たちが育つ上でとても重要な問題になってくる。睡眠の問題は、けやき小学校で、足利大学の睡眠専門にやられている先生と連携をとって調査などを行っているので、是非その辺を広めていくと良いのかなという気がしています。

要するに、スマホの問題などでゲームの課金が、知らない間に親の通帳からお金が減っていくということがあったりして、保護者と協力してやっていくことはとても重要かなと思います。

最後に1つ、さっき市長さんがおっしゃった目標のことで付け足しなのですけれども、やっぱり夢とか目標が、主体的に学ぶ上ではとても重要だなと思うのですが、このあいだ東京オリンピックで銀メダルをとった自転車競技の梶原悠未さんという24歳の筑波大学の大学院生なのですけれども、この方は私2年位前から注目していたのですけれども、なんで注目していたかということ、梶原さんの家では、新年のお年玉をいただく時に、親から毎年お年玉をいただく前に目標や夢を聞かれるのですね。毎年お正月には、今年の夢はこれで目標はこれって言っていたそうなのです。現在はコーチもマネージャーもおらず、自分で全部練習計画を立てて、お母さんがバイクで付き添って練習して、あそこまでの、オリンピックで2位をとるまでの力をもったということは、やはりその意欲というか、目標があるから頑張るのはそれかなと思いました。以上です。

## 市長

ありがとうございました。照本委員いかがでしょうか。

## 照本委員

私は「目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成」には2つ必要なことがあると考えまして、1つめは先ほど市長さんもおっしゃってましたけれども、小さな成功体験の積み重ねが必要だなということと、もう1つは「分からない」が素直に言える環境が必要ではないかなと考えています。

やはり何かで一番になって、小さいことで良いのですけれども、そして褒められる体験をする、そうすると次の段階に挑戦しようとする意欲が湧いてくると思います。次の段階に挑戦をしようと思えば、そこに到達するためにはどうしたら良いのか考えると思います。考えるためには、考えるための知識であったりとか、基礎的な学力というのが非常に必要になると思うのですね。そうした時に、何かで一番になりたいと次々目標を設定していった時には、最後は色々な環境の子供たちがいる中でも、切磋琢磨する環境というのが非常に必要で、そうするとみんな全体的に学力であったりとか、意欲であったりとかが同じくらい高い、そういう子供たちを育成するということが必要になってくると思うのですね。

そうした時に、色々な環境の子供たちがいるということは、家庭で学習する、そういう機会がたくさんある子もいれば、そうでない子もいると思います。そうすると、やはりそこに学力の差もできてきて、より頑張ろうという子供と、分からないからここでいいや、先ほど言われていましたけれども何となく毎日が楽しければいいやという子に、どうしても分かれてしまうと思います。そうした時に、小学生も高学年になったり、中学生になりますと、分からないと言うことが恥ずかしいという風になる子供が増えてくると思うのですね。ボランティアで開催している学習会で、子供と一緒に勉強していると、中学3年生の子供がつかずいている場所が、小学校4年生とか3年生くらいの学習の部分だったりするのですけれども、そこまで戻って学習することってというのは、結構本人も恥ずかしいとっていて、分からないまま言えなくなっているし、どこから分からなくなっているかも分からなくなっているのですね。

ですので「分からない」が素直に言える環境というのが1つあると、そこから色々な人に教えてもらったりすることによって、自分も1つずつ分かっていたら次を学習しようと思えますし、それによってみんなが同じくらいの中で切磋琢磨する環境ができていくのではないかなと考えています。

今回タブレット端末が1人1台導入されましたけれども、分からないが言えなかったとしても、タブレット端末を利用することで、分からないところから自分のペースで勉強していくことができるようになると思いますし、先ほど、スマホであったりとかテレビを見る時間が多くあって、家庭で学習する時間が取れない子供たちが少し多いということもありましたけれども、スキマの時間とかで勉強することもできるようになると思いますので、今回導入されたタブレットをより活用できると良いのではないかなという風に考えます。以上です。

## 市長

ありがとうございます。木村委員お願いします。

## 木村委員

それでは「目標に向かい主体的に学ぶ児童生徒の育成」ということで、私の考える一番重要なところだと思うところは、目標設定なのかなという風に思います。子供たち一人ひとりが、将来どういう風になりたいのかという目標設定が非常に重要なのではないかなという風に思います。例えば身近で言うと、足利出身の偉大な方々、今度足利高校がリニューアルされた時に、ちょっと私聞いているところによると、売野さんが校歌の作詞作曲をするなんてことを耳に挟んだことがあるのですけれども、そういった全国で活躍されている、メディアで活躍されているような方をフォーカスした、例えば生い立ちだったりとか、その人の活躍というのを、足利出身の方というところにフォーカスをした形での、例えばムービーだったりとか、そういった座談会的なことであったりとか、例えば相田みつをさんだったりとか、あとはメディアで、ここ最近足利のフィルムコミッション的なところで映像を作っている会社の社長さんであったりとか、例えばそういった多方面で活躍されている方をフォーカスして子供たちに見せたりとか、そういったところでのセッションだったりとか、そういったものをつくることで、子供たちが自分はこの風になりたいという気持ちになるとかですね。例えばほかに市長だったり政治家になるとかってこともそうですし、茂木代議士だったりとかそういった方とのセッションを子供たちが持てることによって、将来こういう風になりたいというような目標を持たせること、というのが一番重要なのではないかなという風に思います。

それとその中で、先ほどもありましたけれども、足利市はかなり事業者が多いという中で色々な後継者がいて、色々成功する方と色々事業を展開される方といますので、そういった方にもフォーカスをあてながら、子供たちが親の会社を継いでいくみたいなどころでの目標になったりするような人をフォーカスして、子供たちに目標を持たせるということが非常に重要なかなと。その中で私が思うのは、子供が自分から勉強に取り組むのと、ただ単に教えられてとか、塾に行かされて勉強するのとでは、行って帰ってくるほど違うのではないかなという風に思います。主体的に自分から学ぶという風になった時には、同じ時間を使っても学びの容量が変わってくるのではないかなという風にすごく思いますので、その目標設定、それとそこに学習を乗せた上での子供の誘導というかですね、学習への取組というところをうまく連動させてあげると良いのかなという風に思います。

その中で、今回タブレットを用いた教育が進行される中で、スタディサブ

リを用いて、学年を飛び越えて、例えば小学校4年生が5年生、6年生、中学生の勉強をするような、そういった取組なんかも子供たちはできるのではないかなという風に思います。そうすると将来こういう風になりたいのには、例えば数学だったり物理を、小学生から中学生から勉強するみたいなことができたら、子供たちは主体的に学んでいけるのかなと。そういったところが学力の向上に結び付くのではないかなという風に思います。

そういった中で、いろいろと子供たちが成功体験をしていく中で、勉強しながら色々と失敗と成功を繰り返しながら、良いスパイラルに努力をして、成功して、褒められて、また努力をしてというプラスのスパイラルを作れたら良いのかなという風に思います。やはり競争の中で子供たちは、私が思うのは、あまり競争がないのかなという風に感じていて、例えば学校の成績であっても、昔の成績表であると、この子はできるのかできないのかなというのは非常に分かりやすいのかなと思うのですが、今の成績表を見ても、実際に親として見ても何となくこれできている子なのか、できていない子なのかというのは、いまいち掴みにくかったりとか。あとは順位が分かりにくくなっていたりとか、そういった競争にさらされない環境というのが、先ほど言った挫折と成功という中での良い経験には何となくならないのかなという風に感じています。そういった競争の社会に、ゆくゆくは社会に出る時には絶対に競争の社会になるので、急激に高校から競争社会になったことによって子供たちが怯んでしまったりとか、心の病気になったりとかということがあるのかなという風に思います。ちょっとまとまりませんが、目標を持ってその目標に向かっていくための手段として、勉強をというところを重要視したら良いのかなという風に思いました。以上です。

## 市長

ありがとうございました。それぞれの委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。一時はアクティブラーニングなんて言葉が非常に使われたり、あるいは大学受験があのようなシステムなので、どうしても詰め込み型の勉強になるので、高校、大学の高大接続改革を行って、大学受験のシステムを変えて、そうすれば大学に入るために高校の間から変わってという形で、アクティブラーニングが出た時期もありましたけれども、最近ではすっかり聞かなくなってしまうよな。

そういう中で目標というのも、例えば会社で言っても、大きな目標もあれば、達成できる小さな短期的な目標を設定して、それをきちんきちんとクリアしていくというやり方と両方あると思うのですが、その目標というのは学力のこともあれば、ピアノコンクールで何位に入ろうとか、それぞれの子供で設定できるものかなと思っているところもありまして、そういう意味

では先ほど話に出ましたように、例えば偉人の方々、例えば伝記とか、その色々な人の生き様を知る機会というのも、確かに読書等を通じて大事なのかなと思いますし、昔で言えば親に買ってもらったドリルで、自分で勉強したのですけれど、今ではタブレットを使って自分で意欲的に学んでいく環境を整えられると思いますので、そういった意味では環境も変わってきているのかなと思います。

先ほど市橋委員から話がありましたように、「学びのすすめ」のお話がありましたけれども、実は以前に県のほうでも携わったのですけれども「家庭学習のすすめ」というものを作って全戸配布してもらった時期があったのですけれども、ちょうど私の子供が入学式の時だったのですが、入学式で渡された大量の資料の中にそれが入ってくるだけ、渡されただけなのですよね。折角一生懸命作ったものでしたけれど、学校でそれをもとに説明されることもないし、「家庭学習のすすめ」だからということなのでしょうけれど、持ち帰りなさいと言うだけのこんな厚い中に入っただけなので。あれは多分ほぼ読まないで捨てると思います。そうならないように、折角作ったものを学校現場やPTAや何かで、どう使っていくかということについても考えなくてはいけないなと話を聞いていて思いました。

あとは親学習プログラムですね。親学習だと。やっぱり学校現場だけではなくて、家庭に帰ってからの時間は長いので親が一緒になって目標のこととか、学級生活のこととか、スマホのこととかどうするのかということについて、親としてこうあるべきという姿を示せないかということがあったのですけれども、やはりなかなか価値観の多様化の中で、親はこうあるべきだということを県の教育委員会の人がいにくいということがあって、なかなかそこまで示せなかったのですが、親学習プログラムというのを作ったのだと思うのですよね。でもそれを会社とかを通じて、会社の朝礼や研修の時にちょっと使ってくださいとか、そういう感じだったと思うのですけれども、なかなか価値観とか個人の問題があるので難しいところもありますが、やはりそうは言っても家庭とか親とかというものが、やはり一義的には頑張らないといけないなというのが思っていることなのです。一番届きそうで届かない、近いけれど遠いような存在であって、やってくれる親は聞いてくれるけれど、聞いてほしい親が聞いてくれないというのが現実かもしれないのですけれども、その辺は目標に向かい主体的に学ぶという時に、どうですかね教育長、学校と家庭の関係性というか親への示し方みたいなところでは、大分現場は苦労なさっているのではないですか。

## 教育長

今、市長が言われたとおり、PTA会長とか、PTAの役員の方々と話して、例えば学校とかPTAの中で課題があって、それをみんなでどうにかしていこう、PTAで集まろうとなつて、そこで話をしようと思つて、今、市長の言われるように、積極的にやろうとしている人たちは集まる、でも本来、来てほしい人、聞いてほしい人は逆に来ない。そうすると、PTAとかでも、学校の課題とかそういったものを親として考えようと言つても、普段考えている人たちが考えている、その傾向というのはどこの学校にもあるようです。どこの学校の課題もそこに、PTAの課題もそこにあると私は聞いています。それでよしとはならないと思いますので、一人ひとり、けやきなんかですと、PTAの方ができるだけ口伝えで、一緒に行こうよと声掛けをしてくれるようになっていくようです。

## 笠原委員

すみません、途中で割り込んでしまいますけれど。私はずっと教育委員をやつていて、対象とすると小中学生が多いのですけれども、ちょっとさっきの話につながってしまいますけれども、足利の小中学生の全国的な位置づけが、例えばさっき市橋委員が言われていたスマホ、ゲームの時間が平均よりも多い、あるいは家庭学習の時間が少ない、これはもうずっと私が教育委員になって全国学習状況調査でずっと一緒なのですね。足利の空気を吸って、足利の水を飲むとそうになってしまう訳ではないのですね。

それは子供たちがそうってしまったのではなくて、やっぱり家庭がそうしてしまったというのが一番多いのだと思うのですよ。例えば私は足利の教育で何が一番自慢ですかと言われた時に、他市と比べるとはさっきも言ったようにできませんけれども、やっぱり一番主張できるのは、足利学校と教育目標だと思つているのですね。少なくともほかの市にないですから。この教育目標は、生涯教育というのは足利でずっと前から謳つているのですね。そうすると、対象は小中学生が多いのですけれども、むしろ私は生涯教育というのをもっと足利は力を入れて、さっきの親プログラムではないですけども、親御さんに、家庭にいる人にどうやって向上心を持たせる、自己肯定感を持たせる、そういうことを足利市はやらないと、逆に今の子供たちが、さっき言ったネガティブな話だったのですけれども、親の背を見た時に、親が頑張る必要はないよと言つているかもしれないのを、そこから直すのではないかなと思うのですね。一番かゆいところに手が届かない話ですよ。でもずっとやっていると、私は足利の子供たちには、そこが一番必要なのかなという風に思ったりします。

ただ一つ光明じゃないのですけれど、これはいけるのではないかなと思つて

いるのは「うちどく」です。やっぱり本を読むということは大事ですし親子で、同じ本を読まなくても良いのですよ、一緒の時間、例えば30分、片方ではこっちを読んでいる、何やっている、要は単純にテレビを見て寝転がっているのではなくて、やっぱりその時に知識を得ようとするような、家庭の中での親御さんと一緒に共有する時間というのがあれば、仕事が忙しいとか色々あるかもしれませんが、何かそういうことの中で、学びの楽しさとか向上心を持つとか、何かそういうことができる。私は「うちどく」というのは、その可能性があるのではないかと実は大きな期待を寄せているのですね。

そういうことも含めて、決して足利の水や空気が子供たちを変えてしまったのではないので、やっぱり原点に戻って、子供たちが育つ家庭の環境をどうやって変えるかということをもっとやる必要があるのではないかと私は思ったりしますね。

## 市長

ほかに何か

## 市橋委員

今「うちどく」の話が出ましたが、私もそれはすごく良いと思っています。足利学校に国宝の書籍があるじゃないですか。こういう街ですから、古文に親しむのは、本は宝物の山だと思えるのですよ。何でも知りたいものが分かるという宝の山だと思えるので、それを身に付けることで生涯学ぶことができるということで、そういう読むことを習慣づければ、すごい力を子供たちに与えることができます。「うちどく」は足利小中学校PTA連合会から始めて、今独立した形になっていると思うのですけれども、あれを大事にして、親子で読書という、親が入るのですごく良いと思いますね。

## 市長

明日「うちどく」の方々と会うので、今日の教育委員さんの話を聞いたらたぶんお喜びになると思います。会長さんを始め、明日いらっしゃるので。

まだ時間がありますので、色々なご意見を。

## 照本委員

本を読む環境というのは、自分は今子供が今年から大学に行きましたけれども、親がその姿を見せることって、すごくもしかしたら難しいのではないかなって感じる場所があります。共働きの家庭がものすごく多くなっていると思うのですよね。帰って家事やって、子供にご飯を作って、そして

決まった時間にある程度寝かせて、学校のを全部見て、お手紙出してという。

何となく自分も結構その繰り返しの中で、あとさらに今はサブスクとかも色々あったりとか楽しみ方がたくさんあって、自分が高校生とかの時にはそういうものが一切なくて、たまたまテレビゲームを買ってもらえない家だったので、本を読むということしか、あとテレビの時間もすごく限られていたので、本を読むことがすごい楽しい、何と云うのでしょうか、自分の娯楽だった訳なのですね。

先ほど言ったように、忙しいお父さんお母さんと、たぶん子供には何かやっていてほしいのですけれど、自分も本を読まないから、なかなかそうすると、テレビでこういうビデオを見てなさいとか、ゲームでも今勉強できるものがあるからそれをやりなさいという形になってしまって、私自身ももっと本を読みたいと思いながら、結構本当「つん読」ですね。たくさん本を買っては、積みあがっている状態になっている現状で。私もすごい本を読むことってというのは考える力であったり、知る力であったり、調べる力であったり、色々なものを作ってくれると思うのですけれども、小学生くらいまでだと親も一緒に読もう、子供のために一緒に読もうと思うかもしれないのですけれども、中学生になってくると、子供もなかなか色々な楽しみ方があったりとか、子供も疲れてくるなかで、どうやって本を読ませたら良いのだろうと自分もすごい悩んだので、そこをもう少し、何と云うのでしょうか、中学生以上の子が本を読むような環境を作るよう、うまくまとまらなくて申し訳ないのですけれども、考えると、それこそ色々な力がついて、目標を持つために知らなくてはいけないことを知って、すごく良いのではないかなとは私も思います。

## 市長

例えば出かけて何か待っている時なんかには、子供に本を2、3冊持たせておいて、待っている時にそれを読ませてやる親もいれば、スマホをポンと渡している親もいて、親同士話していて、子供が帰りたいと言うと、スマホを渡してこれで待ってろという、そういうのをよく目にしますよね。

昔は図書券とかをもらおうと嬉しくて、ご褒美は本を買ってもらおうとかありましたけれど、確かに今は本屋さんの数が減っているというのもありますけれども、読書ということに対しては、もうちょっとその力を入れてというのは皆様共通のご意見なのかもしれませんね。

## 市橋委員

足利の市立図書館についても大事にしてほしいというか、市民が寄って読める場所だから力を入れてほしい。子供たちも行けるし、学校でもそこから本を借りられるし、先端的な図書館、親子で一緒に借りられる、家に本がなくてもあそこに行けば何かあるっていう、あればお金を出さなくても借りられるので、そういう誰でも行けて楽しい図書館になってほしいという気がする。

## 市長

小学校低学年の頃って、学校図書館もそうですし、図書館から借りてきても自分で本を買っても良いですけど、読書の王様とかって言って、読んでいった本をずっと書いていって学期ごとの最後に集計してくれて、学校のクラスの先生から読書の王様っていう賞状をもらったりするんですけど、確か低学年のうちには喜んでやっていて、だんだん上になるにつれてそういう機会が減っていくのですよね。

## 木村委員

あと1点良いですか。前に夢チャレンジといって、三中でJリーガーを呼んで夢体験みたいな、そういう活動を教育委員会で開催していて、その機会を与えられる生徒が、たまたま前回は三中だけだったということで、非常に夢を持つというところでは良い経験なのかなと思って。実際のJリーガーの人とリモートで対談をしながらという形で。そういった活動を足利の全小学生だったり、中学生に機会を与えられればなと思いました。

今回リモートというところで、足利市内全員に向けて、有名な方を連れてきて対話をしたりとかいうところは非常に良いのかなという風に思いますので、そういったチャレンジをしてもらおうということと、2分の1成人式とかそういったところで、子供が将来の目標というのを考えたりすると思うのですね。なかなかその時に、子供たちも将来の目標を絞れなかったりとか、別になりたいものがない子供たちは多いのかなという風に思うので、そういったところの機会をたくさん子供たちに作っていくことが重要なかなと思います。大体僕らの頃でも、卒業文集に将来の夢みたいなことを書いたと思うのですが、そういった時に立ち返ってみると、その時何になりたかったのかなという、そういった将来の目標というのを例えばイチローであったりとかだと、その頃からプロ野球選手になるとか、そういった夢を持つということは、非常に将来に向けて、その強さが人間力を作っていくのかなという風に思うので。

## 市長

学力のこととなりますと、日本という国のことなのかもしれませんが、例えば3科目あって1科目が50点、ほかは70点、80点取れていると、50点のものを伸ばしなさい、全部平均で取れるようにしなさい、で総合点です。というのが日本だと思うのですが、例えば海外とかだと算数だけとか、それをもっと伸ばせ、100点を200点にしちゃえということで、スペシャリストを作るじゃないですけど、良いところを伸ばす、良いところを見るという教育をしているということ、この前ある人が言ってました。

日本はどちらかというと、受験システムがそうだから、総合点で5教科の合計点で合格ですとかとなってくるので、そこから変えなくてはいけないのかもしれませんが、ある意味、全教科バランスよくできるというのが日本の特徴なのかもしれませんが。

そういった意味では、学業だけじゃなくて、やりたいことを見つけるとか、できるものをもっと伸ばすとか、それによってやる気とかそういうものが、意欲がついてくるとかということもありますし。その伸ばし方っていうのは、できないものを伸ばす伸ばし方、できるものを伸ばす伸ばし方というのは、親とか学校現場とかになってくるのでしょうけれど、どうしても学校現場に求められることが多くなりすぎていて、食育もそうですけれど色々な「育」という字をつけて、学校現場に任せる傾向にあると思うのですが、本来は家庭でということがあるのかなとずっと思っていました。

そういった意味では、さっき話していたように親、家庭に対してどうアプローチしていくかというのは本当に難題だけど、そういう意味では、きっかけとしては「うちどく」とか、こういった機会を通じて武器を増やしていくという形で、できるところからということも、そういったヒントとかを色々な場面を通じて、若いお父さんお母さんたちに提供するとかですね、できるところからかもしれませんけれども。

## 笠原委員

いつも途中ですみません。親の話でまたちょっと尾ひれがついてしまう話なのですけれど。

色々比べることをしているのでしょうし、足利の弱いところもよく知っているのでしょうけれども、良いことをあまり評価していない人が多い感じはしますよね。それは両方あってしかるべきで。やっぱり良いところは良いところで認めた中で、例えば家庭の中の会話もそういうことだと思うのですよね。子供の前で親が足利の良くないこと、そういうことを話題にするかどうか知りませんが、少なくとも足利の良さというのをもっと家庭の中で私は話題にしてもらいたいと思うのですが、そういうことっていうのは、

まずないのではないかなと思っています。それが、知らないで分かっていないのか、知っていても位置づけを下げってしまうのか、それは分からないのですけれども。

少なくとも知っているならば、そのことをもっともっと豊かに使ってもらいたいと思うのですね。足利の魅力っていうのは、しっかりあるはずなのに、それを見過ごしているのか、それともその評価が低いのか、いずれにしても、もっと正当な評価をすることをやりながら、そうすると家庭は別にしても、ご自身も足利の良さの中で生きてくることの活気がみなぎってくるということもあったりするのだと思いますけど、どちらかという評価が低く思う方は多いのではないかなと思います。これは教育委員会だけの話ではないかと思いますが、関係ある分にはどんどんやりますけれど、市長部局さんも頑張ってもらおうと思います。

## 市長

すごく分かります。良く怒られますから。ほかのまちと比べてこうだとかね。そんなことないと思うのだけど。

## 笠原委員

正當に評価すれば、もっともっと、ああ良いところに住んでいるなと思うと思うのですが、それこそ足利の住人の気風なのかもしれませんけれども、そういうのを子供たちには伝えないでもらいたいなと思ったりしますよね。

## 市長

自分もこういう立場にならしてもらってなんですけど、別の指針みたいなところには、足利のことを誇らしく思ってもらえるようなことが必要かなと思って、人を育てていくうえでですね。この地元に対して、足利に対して誇りを持ってほしいということを書いたこともあるのですが、おっしゃる通り謙遜なのかもしれませんが、そうじゃないこともあると思っています。良く県でも言うのですが、JR宇都宮の駅からタクシーに乗ったと、観光地の話なんかをすると、運転手さんが「こんなところ来たって何にもないよ」って言うとかですね。それは謙遜なのかもしれないけれど、言わないでくれと。栃木はいい街だといってくださいっていうことは、県からタクシー業界、バス業界に言ったこともあったのですが、確かにそういう県民性があるのかもしれないですね。

## 市橋委員

家庭の問題がいま出たと思うのですけれども、家庭が、私が教えていた、現場にいた頃と違って、お母さんがほとんど働いている。だから学校から帰って宿題をやる場所が家ではなく学童、それがかなりの家庭。だからさっき家での家庭学習の話をしましたけれど、昔のような感じではない。学校から帰ってランドセルを開けて、じゃ宿題しようという、家ではなくて、かなりの子が、さっきのお話にあったように家じゃないのですね、学校から帰る場所が。

だからそれも考えながらやっていかないと、子供の見た家庭って、たぶんそれから夕方になって、夕飯食べる頃に家へ帰って、恐らく寝るみたいな感じかもしれないなと思って。そうすると学童とか放課後児童クラブとかの存在価値って大きいなと。今まで家庭で養っていたものが、そこはかなり行ってるから、子供たちにとって今まで家庭にあったようなものを入れてかないとかなっていう。ある時びっくりしました、こんなに学童行ってるんだ。どうですか。

## 学校教育課長

確かに学童へ行って、学童で宿題見てもらって、自主学習の時間をやって、そのあと学校の校庭で遊んでいるというのは良くありました。社会状況が。

## 市橋委員

お母さんが宿題なんて知らないのかなっていう。家によってそれぞれなのですけど、時間的に見ると、かなり学童の部分が子供たちの自由時間というか、昔と違う。

## 市長

今回2学期の始めを分散登校にしたのも、やっぱり働いている家庭が多いので、休校って言われるとなかなか対応が、職種によってはなかなか休めないようで。休まれちゃうと会社も困っちゃうというところもあったので、分散登校で。

学校給食もどうかという話もあったのですが、そこもじゃあ自宅のお弁当ってことにすると、持ってこられる家、持って来られない家がでてしまうのと、やっぱり感染に気を付けながらも給食は提供しようと。

それぞれの家庭の事情に配慮したというのが背景にあって、分散登校と学校給食というのを教育長とかと相談して、選んだ訳なのです。だから足利の場合には、結構、実際に働いている家庭で、しかも職种的になかなか休めない、子供と一緒にいる時間が少ないというのは多いかな。

## 教育長

そういう家庭が多いからこそ、先ほど委員さんからもお話ありましたけれども、従来であれば家庭でやってもらっていたことが、どんどんどんどん学校に下りてきているということも実際のところだと思います。それを嘆いていてもしようがないところがありますので。

学校で個に応じた指導とか、そういったことを言葉では言いますけれど、じゃあ実際に個人を見た時に、担任がどんな言葉かけができるのかとか、家庭事情をどこまで把握しているのかとか、そういったところの担任と子供の関係というのは、これからもっともっと意味が大きくなっていくのかなという風に思っています。

それは学習面でも同じで、頑張ったなって頭をなでてあげることが、その子のものすごく意欲に、気持ちの高揚にもつながる場合もあるでしょうし、そういったところを見極めながら、把握しながら、どう対応していくか。個に応じた指導を、どういう風に具体的に指導ができるかというのは、ものすごくこれから、先ほどの意欲というところにもつながっていくのかなという風に思っています。

例えばイチローの話とか言っても、もしイチローさんが野球というスポーツに出会わずに違うスポーツで根を詰めて練習したとしたら、あそこまでのただらうか。そうした時に、家庭の環境だとか、または学校の中での環境だとか、色々なことがかみ合って、初めて一つのイチローという存在があるのだらうなと思うのです。

先ほど家庭の話がずっと出ていましたけれども、学校の役割、家庭の役割、もしかしたら地域の役割、そういったものが相互補完されて、初めて子供というのは育っていくのだらうな。だからそれぞれの役割を、もう一回我々も教育委員会としてきちんとした整理をして、そしてそれぞれがやるべきことをきちんと下ろしていく。

そのシステムを作っていないと、たぶんどうしようどうしようですすぐ終わってしまうのかなと思いますので、そこはきちんとこれから、先ほど笠原委員さんも言われていましたが、教育目標も足利にはありますので、そういったところの具現ということは何十年も同じ言葉を使っていますので、では実際に今何ができるのだというところを明確にしていくことが大事なのかなという風に思っています。そここのところはちょっと努力していきたいと思えます。

## 市長

ありがとうございました。今日のテーマでありました「目標に向かって主体的に学ぶ」というところ、目指すべき子ども像について、さらには親や家

庭の果たすべき役割とか、果たすべき姿とか、多岐にわたります様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。教育長からはまとめていただきまして、ありがとうございました。

子供たちを最優先に考えて支援していくために、今後も教育委員の皆様と密に連携をしながら、コミュニケーションを取りながら一緒に考えて、そしてしっかりと取り組んでいきたいと思っています。本当に今日は貴重なお時間をありがとうございました。引き続きよろしく申し上げます。本日の議題はこれで終了となりますので、終わりにいたします。

## 事務局

それでは以上を持ちまして、本日の会議を終了させていただきます。大変お疲れ様でした。

○閉会 午後4時45分